

## 第1回学習時間調査結果から見えてくること

先月18日から24日までの7日間、第1回学習時間調査を実施しました。その結果の一部を以下の表にまとめました。皆さんにお知らせするとともに、今後の学習への取組みについて、いくつか考えてみたいと思います。

◇ 調査の目的と活用方法は次の通りです

- 学習時間から学年や系・コースに適した学習スタイルを考える機会とします。
- 考査や模擬試験等の成績分析に活用します。
- 授業や課題など学習方法の改善に活用します。

表1 各教科学習時間

	英語	数学	国語	理科	地公	他	合計
1年	40	51	15	9	3	2	119
2年	55	52	31	6	3	1	150
3年	57	46	34	33	13	3	186
	英語	数学	国語	理科	地公	他	合計
1年	58	65	31	9	5	4	172
2年	76	68	54	13	4	1	216
3年	73	66	58	34	22	9	262

表2 合計学習時間人数(割合)

	1年	2年	3年
4.0h~	7 (3%)	8 (3%)	36 (13%)
~4.0h	5 (2%)	13 (5%)	37 (14%)
~3.5h	18 (7%)	40 (15%)	53 (20%)
~3.0h	34 (13%)	65 (24%)	61 (23%)
~2.5h	41 (16%)	77 (29%)	42 (16%)
~2.0h	58 (22%)	42 (16%)	16 (6%)
~1.5h	59 (23%)	13 (5%)	13 (5%)
~1.0h	36 (14%)	9 (3%)	8 (3%)
	1年	2年	3年
6.0h~	6 (2%)	16 (6%)	41 (16%)
~6.0h	12 (5%)	26 (10%)	27 (10%)
~5.0h	25 (10%)	62 (23%)	53 (20%)
~4.0h	21 (8%)	34 (13%)	39 (15%)
~3.5h	31 (12%)	49 (18%)	33 (12%)
~3.0h	83 (32%)	58 (22%)	50 (19%)
~2.0h	58 (22%)	14 (5%)	14 (5%)
~1.0h	22 (9%)	8 (3%)	(3%)

※表1・2ともに上段が平日下段が休日



表の結果から、あなた自身、現在の学習状況をどう感じているでしょうか。1年前と比べて、学習量や質にどのような変化が生じたでしょうか。

私たちは次のように、結果を分析しています。

- 課題の量と学習時間が比例しており、課題中心の学習時間であること。
- 学習習慣が身に付いていない者が見られること。
- 予習時間として休日学習を利用していること。

等々・・・

そこで、結果と分析から次の2点について今後の学習に生かして欲しいと思います。

1. 学年やコースに適した学習スタイルを身につけよう。
2. 「きせきノート」を通じて、学習活動をスケジュール化しよう

1. については、学年が上がるにつれて時間は増えていますが、時間ごとの人数割合(表2)では平日の1年生で1時間未満が14%、また2,3年生で2時間未満が各々24%、14%です。これでは学習内容の「消化不良」、「食わず嫌い」に終わってしまう、明らかに少ない時間数です。調査時期に比べて、学習時間は増加していると思いますが、これらの割合にあてはまる人たちは、『①課題 ⇒ ②学習時間不足 ⇒ ③消化不良/食わず嫌い ⇒ ④課題未提出 ⇒ ⑤(次の)課題』の悪循環に陥らないために、まずは「②学習時間不足」の解消です。各学年に応じた学習時間(1,2年:3時間、3年:4時間 \*平日の場合)は教科バランスを図りながら設定されています。各学年の時間を目標に、この1学期に取り組みましょう。また、表のデータからは分かりませんが、系・コースによる学習スタイルとして、2,3年生理系は理科に十分な時間を充てて欲しいと思います。新課程入試(15年度入試が初年度)から、理科の重要性が増すことや志望学部・学科を検討する上で、学習内容は大きく関係するからです。

2. については4月より利用していますが、学習活動に十分活かされているでしょうか。とりわけ、1年生は学習課題が増える中で、中学校とは異なる学習習慣の確立をしていかなければならないこの1学期、是非、「きせきノート」を通じてスケジュール化した学習を実行して欲しいと思います。(2,3年生も同様のことですが・・・)

とは言いつつも、計画通りに勉強が進むものではありません。往々にして計画した学習時間よりも実際の学習時間のほうが長くなることが多くなります。しかし、こうしたことを何回も経験するうちに、自分の学習パターンがわかってくるものです。今後、「学習計画」をテーマに「進路便り」で取り上げる予定ですが、まずは、きせきノート利用の習慣化を図りましょう。

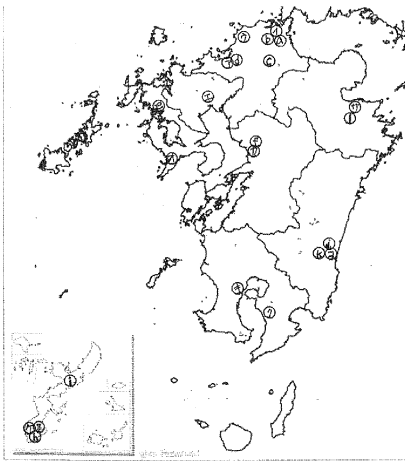
### 大学入試の知識を深める【3】

#### 九州にある国公立大学

本校の生徒が最も多く進学する大学は地元の大分大学です。2番目が熊本大学、3番目が九州大学・・・という順で進学しています。

大分県内の多くの高校生が進学先として、まず考えるのが九州・中国・四国エリアの国公立大学です。どこにどんな大学があり、またその大学にはどんな学部・学科が設置されているか知っていますか？知っているようでなかなか正しい知識を持っていないと思います。

今回は九州・エリアの国公立大学をすべて地図上にあらわしてみよう。



#### 【九州エリア】

##### ●福岡県（7大学25学部）

###### 国立大学

ア：九州大学（福岡市）：文学・法学・教育・経済・理学・医学・歯学・薬学・工学・芸術・農学の11学部

イ：九州工業大学（北九州市）：工学・情報工の2学部

ウ：福岡教育大学（宗像市）：教育の1学部

###### 公立大学

a：北九州市立大学（北九州市）：外国語・経済・文学・地域創生学群・国際環境工学の5学部

b：九州歯科大学（北九州市）：歯学の1学部

c：福岡県立大学（田川市）：人間社会学・看護の2学部

d：福岡女子大学（福岡市）：国際文理学・文学・人間環境学の3学部

##### ●佐賀県（1大学6学部：H27年度から6学部）

###### 国立大学

エ：佐賀大学（佐賀市）：文化教育（H27年度から教育と芸術の2学部に変更）・経済・医学・理工・農学の5学部（H27年度から6学部）

##### ●長崎県（2大学12学部）

###### 国立大学

オ：長崎大学（長崎市）：多文化社会学・教育・経済・医学・歯学・薬学・工学・環境科学・水産の9学部

###### 公立大学

e：長崎県立大学（佐世保市・西彼杵郡）：経済・国際情報学・看護栄養学の3学部

##### ●熊本県（2大学10学部）

###### 国立大学

カ：熊本大学（熊本市）：文学・法学・教育・理学・医学・薬学・工学の7学部

###### 公立大学

イ：熊本県立大学（熊本市）：文学・環境共生・総合管理の3学部

##### ●鹿児島県（2大学10学部）

###### 国立大学

キ：鹿児島大学（鹿児島市）：法文・教育・理学・医学・歯学・工学・農学・水産・共同獣医の9学部

###### 公立大学

ク：鹿児島体育大学（鹿屋市）：体育の1学部

##### ●沖縄県（4大学12学部）

###### 国立大学

ケ：琉球大学（那覇市）：法学・観光産業科学・教育・理学・医学・工学・農学の7学部

###### 公立大学

g：沖縄県立芸術大学（那覇市）：美術工芸・音楽の2学部

h：沖縄県立看護大学（那覇市）：看護の1学部

イ：名桜大学（名護市）：国際学群・人間健康学部の2学部

##### ●宮崎県（3大学6学部）

###### 国立大学

コ：宮崎大学（宮崎市）：教育文化・医学・工学・農学の4学部

###### 公立大学

ジ：宮崎公立大学（宮崎市）：人文学の1学部

ク：宮崎県立看護大学（宮崎市）：看護の1学部

##### ●大分県（2大学5学部）

###### 国立大学

サ：大分大学（大分市）：教育福祉科学・経済・医学・工学の4学部

###### 公立大学

シ：大分県立看護科学大学（大分市）：看護の1学部

このように見ていくと、九州内に国立大学は11大学、公立大学は12大学があることがわかります。私立大学は4年制の大学だけを数えても、九州内には57大学があるのです（大分県内には日本文理大学、別府大学、立命館アジア太平洋大学の3つの大学があります）。しかし、残念なことに大分県は大学の数が少なく、特に国公立大学の学部数の合計が九州で最も少なくなっています（現段階では佐賀県と同じ）。そのために、自分の志望する学部が県内にない場合は、他県の大学へと進学せざるを得ません。もっと多くの国公立大学が県内にあれば、進学に際しての経済的負担は少なくてすむのですが・・・。

上に書いたのはあくまで学部までです。その学部の中にどのような学科があるのかは、学部の名前だけではよくわかりません。

これから先は、みなさんが自分で調べてみるのが大切です。是非自宅でインターネットなどを活用して、大学の歴史や位置、周辺の街並み、設置されている学部や学科、それぞれの大学・学部・学科のアドミッションポリシー、カリキュラムや研究内容、学生生活や部活動などなど・・・、自分で調べてみてください。自分で調べてみることによって、大学への興味関心が強くなっていくはずです。